環境真菌Basidiomycetesと慢性咳嗽
—Fungus associating cough syndrome(FACS) から Allergic fungal cough(AFC) まで—

石川県済生会金沢病院呼吸器内科　小川晴彦
金沢大学大学院細胞移植学呼吸器内科　藤村政樹

1995年来　我々は、Basidiomycetes（BM）の関与が疑われ、喀痰好酸球が増加する難治性アトピー咳嗽の経験から、BMに着目し　1）アレルギー性気道疾患におけるBMの即時型皮内反応陽性率が健常人より有意に高いこと　2）慢性咳嗽患者の咽頭真菌培養でBMの検出率が*Candida*に次いで高いこと　3）BMによる難治性ACで抗真菌薬が有効な症例を報告してきた。さらなる研究のために我々は、気道検体から環境真菌が培養される慢性咳嗽患者のうち、標準的治療により十分な効果が得られない患者群を＜真菌関連咳嗽症候群 Fungus associating cough syndrome (FACS) ＞として捉えることを提案した。FACSの検討から　4）BMは慢性咳嗽の難治化と関係が深いこと　5）BM陽性のFACSには少量の抗真菌薬が有用であること　6）*Bjerkandera adusta*（BJA）は、FACSに関わる重要な環境真菌であること　7）FACSの中に、BJAに対するIgE非依存性のリンパ球反応によるアレルギー性真菌性咳嗽 (Allergic fungal cough; AFC) なる、新しい疾患概念が存在することが明らかとなった。AFCは抗真菌薬が有効であるが、除菌後も再発をくりかえし難治性の経過をとる。AFCを包括するFACSの認識は、慢性咳嗽の診断および治療体系に新たな展開をもたらす可能性がある。